

2014 年 1 月 15 日

「卵巣漿液性境界悪性腫瘍」の治療のため当院に入院・通院されていた 患者さんの診療情報を用いた臨床研究に対するご協力のお願い

研究責任者 所属 産婦人科 職名 教授
氏名 青木 大輔

実務責任者 所属 産婦人科 職名 助教
氏名 野村 弘行
連絡先電話番号 03-5363-3819

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、上記実務責任者までご連絡をお願いします。

1 対象となる方

1999年1月1日より2008年12月31日までの間に、当院産婦人科にて「卵巣漿液性境界悪性腫瘍」の診断にて、入院もしくは通院にて治療を受けた方。

2 研究課題名

「卵巣漿液性境界悪性腫瘍（serous borderline tumor, SBT）の病態と臨床的取扱いに関する調査研究」

3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部産婦人科学教室・慶應義塾大学病院産婦人科

なお、本研究は以下の研究組織にて実施される多施設共同研究です。

日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）婦人科腫瘍グループ

研究責任者：小西郁生（京都大学医学部附属病院婦人科学産科学教室）

4 本研究の意義、目的、方法

卵巣漿液性境界悪性腫瘍（serous borderline tumor, SBT）は、比較的珍しい病気であることから、その病態は未だ明らかではなく、特に進行した症例では臨床的な取扱いに苦慮することがしばしばあります。そこで本研究では、本邦における卵巣漿液性境界悪性腫瘍患者さんの臨床経過を多施設において調査し、その病態を正確に把握し、適切な術前診断法、手術療法、および追加治療法について検討することを目的としています。

本研究は多施設共同で行われ、当院で収集された臨床情報はプライバシーが保護された状態で研究代表機関の京都大学医学部附属病院婦人科学産科学教室に送付され、解析が行われます。

5 協力をお願いする内容

臨床情報を収集するため、診療録（カルテ）記録を閲覧させていただきます。また、一部の患者さんにつきましては、病理組織診断の確認のために病理標本（プレパラート）等を閲覧させていただきます。

6 本研究の実施期間

2014年3月1日～2016年3月31日（予定）。

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

実務責任者：野村 弘行（のむら ひろゆき）

慶應義塾大学医学部産婦人科

住所：〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

TEL：03-5363-3819（8時30分～17時）

FAX：03-3353-0249

以上